

地域の皆さまに、心(Heart)と技術(Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌

■特集

私たちは、良質のヘルスケアサービスで 地域医療に貢献します。



インタビュー

介護福祉士のお仕事

「多職種とのチームワークケアで、
より良い介護を目指しています。」



まめ知識

病院の機能分化と 連携をすすめるために



トピックス

島田病院整形外科医による公開医療講座開催

「ふれあい健康まつり」にて島田院長講演
八尾はあとふる病院機能評価Ver.5認証を取得
“Cafe” Infection Control

「士魂商才」

平安時代、菅原道真は「和魂漢才」を、明治維新後、福沢諭吉らは「和魂洋才」を主張しました。いずれも、日本古来の精神世界を大切にしつつ中国や西洋の技術を受け入れ、両者を調和させ発展させるようという趣旨からの提言です。

これらの言葉から「士魂商才」という造語が生まれました。「武士の精神」と「商人の才」とを兼備して実業に励むことです。武士の精神とは、「利より義」を、「私より公」を重んずる魂であり、特有の行動規範がこれを証明していました。

商業は営利を目的とした活動ですが、「徳」が無くなると「儲け至上主義」になり、利益のためなら手段を選ばず活動することになります。明治の頃も同様の商業倫理の乱れがあり、この風潮に対し「士魂商才」と主張されたのでしよう。

昨今の私たちの業界は大きな曲がり角にあります。地域の医療は周産期、救急医療だけではなく、崩壊してきています。辛い労働環境や厳しい評価に耐えてきた医療者は働く動機を失いかけています。こうした時期にこそ、武士の魂を持ち、工夫を凝らし商才を発揮して、患者ひとり一人、そして地域の利益を第一義に、社会に貢献し存在意義を訴えなければなりません。医療は人を信じ、性善説に立って、自分が持つ能力を使い、診療行為を通してその人の意義ある人生に関与する人間的な業務です。「士魂商才」を持って、この難局を乗り切っていきたいと思っています。

どうぞ、今年もご理解とご協力のほど、
よろしく願いたします。

はあとふるグループ代表 島田 永和



島田病院、八尾はあとふる病院は
「病院機能評価認定病院」です。

はあとふるグループ

医療法人(財団) 永広会
社会福祉法人 はあとふる

はあとふるグループは、予防と健康増進・整形外科の専門診療・リハビリテーション・高齢者ケアの複数の異なる機能を有するヘルスケア複合体です。

地域の異なる機関との連携を図りながら、
心(Heart)と技術(Hands)でヘルスケアサービスを提供いたします。

人の一生を通じてかかわる「ヘルスケア」

地域の方々の健康を守り、発症を予防する。生じた疾患を正確に診断し、的確に治療する。
急性期での機能障害を最小のものとするリハビリテーションアプローチにより、その人らしい人生(QOL)の支援を行う。
また、その人らしい最期を送ることができるよう(QOD)ご家族と共に支える。

これらの取り組みは、予防・健康増進、急性期ケア、亜急性期ケア、回復期ケア、維持期ケア、終末期ケア、遺族ケアに分けられます。
地域で生活する方々が安心して医療、介護等をうけるためには、地域の医療機関や介護施設等が機能を明確にして切れ目なくつながっていくことが良質のヘルスケアサービスといえます。



はびきのヴィゴラス トレーナーによるエアロビクス

はびきの ヴィゴラス

医療機関とは違い、医療保険が適用されない施設で、疾病予防のために認められている、医療法第42条に則って設置されている施設です。トレーナー、理学療法士が、島田病院の医師、理学療法士と協働しADL※改善から、専門的な体力や動作の獲得、健康増進、予防など医療機関と連携した活動を行っています。

※ADL (Activities of Daily Living) / 日常生活動作

島田病院

整形外科診療を専門としており、急性期、ことに手術と術後早期のリハビリテーションに力を入れています。43床の小規模病院ですが、平成19年度は、1,163件の手術を行いました。代表的な手術としては、MED(内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア手術)、ACL再建術(膝前十字靱帯再建手術)、TKR(人工膝関節置換術)、THR(人工股関節置換術)、鏡視下肩関節形成手術など専門性の高い手術をおこなっています。特にMEDやACL再建術などは症例件数の多い病院です。整形外科に特化した専門病院として、近隣医療機関や施設との連携に取り組んでいます。



島田病院での手術

切れ目のないヘルスケア

予防健康増進

はびきのヴィゴラス

在宅サービス

相談：老人介護支援セ

八尾 はあとふる 病院

回復期リハビリテーション病棟

急性期治療を終えた後、長期的な医療のリハビリテーションが必要な場合に入院し、在宅復帰にむけたリハビリテーションと介護保険等を使った在宅準備を行っています。他の医療機関からの紹介入院がほとんどなので、急性期病院との密接な連携は必須です。中河内地区地域リハビリテーション支援センターの委託を受けており、地域リハビリテーションの活性化にも取り組んでいます。平成19年度は、59床の回復期リハビリテーション病棟には、月平均約23件の入院があり、平均在院日数は約69.5日、在宅復帰率は約65.1%でした。

介護療養病棟

急性期、回復期での治療を終了し、主として重度の介護が必要な方が介護保険で入院する60床の介護療養病棟です。ここでは、維持期のリハビリテーションのみになります。平成19年度実績として、月平均約6.9名の入院があり、平均在院日数は、約240.6日、在宅復帰率は約41%でした。

老人保健施設 悠々亭

悠々亭の入所では、身体機能が低下した方や精神的なケアが必要な方に対して、自立と在宅復帰の支援を行います。病院退院後に生活訓練と在宅復帰支援をするために利用するなど、利用目的は様々です。悠々亭の通所リハビリテーションでは、在宅での日常生活動作、生活機能が維持・改善できるようにリハビリテーションを実施し、継続した在宅生活の支援を行います。いずれも介護保険が対象となるサービスですが、医療機関との連携は必要不可欠です。平成19年度の実績は月平均約8.9件の入所があり、平均在所日数は約76.6件（ショートステイ含む）、在宅復帰率は約34.4%でした。



回復期リハビリテーション病棟でのリハビリテーション



介護療養病棟でのレクリエーション



悠々亭トレーナーによるグループ体操

サービス



『多職種とのチームワークケアで、より良い介護を目指しています。』



介護老人保健施設 悠々亭 介護福祉士 西浦良治

今回は、介護老人保健施設 悠々亭に入職して2年目の介護福祉士をご紹介します。

高齢化社会の到来とともに、介護職のマンパワー不足が問題とされています。今後の社会に必要不可欠な介護福祉士という職種を目指した経緯や現在の心境や将来の展望などを聞きました。

介護職に就くまで

僕が通っていた高校は工業高校で、その当時は、建築家を目指していました。そんな僕が、介護福祉士になった「きっかけ」は、建築科の実習でバリアフリーの建物を設計したことです。介護を追求していると、いつの間にか短大の介護科に進んでいました。最初のうちは、建築家の志を持ったまま介護の授業を受けていたのですが、介護資格修得のために施設で実習を受けたりする中で、人との関わりが好きになって、介護職自体にも興味が湧くようになりました。

悠々亭へは、のめりこみやすく、スキルアップをめざす僕に最適だと担任の先生に推薦していただき、入職となりました。



**介護職に少しでも興味のある方は、ぜひ職場を見に来てください。
一緒にがんばれる仲間を募集しています!!**

悠々亭の介護は、チームワークケアが基本です。

入職して3ヶ月目位の頃です。配属先の入所フロアに病院退院後に再入所されたご利用者は、看取りケア[※]が必要な方でした。スタッフは、趣味、好きなもの、食べ物の好みなどを聞き取り、それらを生かした対応や声掛けなどを心がけるなど、素晴らしいチームワークでケアに取り組んでいて“スゴイ”と感じたことを今でも、しっかりと覚えています。自分も早くこのチームの一員として力が発揮できるようになりたいと、心から思いました。

しかし、僕は、まだまだキャリアが浅いので、毎日が悪戦苦闘で悩むこともあります。そんな時は、上司や先輩が僕の意見をちゃんと聞いて、的確なアドバイスやフォローをしてくれます。こんな職場風土だからこそ、多職種との連携がうまくいって、あのチームワークにつながっているんだなあと感じています。

介護職は、やりがいのある仕事です。

世間では低賃金、重労働を理由に介護職の離職が多いと聞きますが、仕事を辞めるほど収入に不満もないですし、仕事は確かにキツイ時もありますが、介護という仕事を楽しんでいます。僕の理想は「ご利用者も介護者も気持ちの良い介護」です。当グループの理念にある「その人がその人らしく」にも通じることだと思うのですが、ご利用者本位のケアを実践しながら、それが介護者にとっても気持ちの良いケアであれば最高だと思います。

最近では、ご利用者に「あんたを探しとってん」「いつもありがとう」と声をかけていただくことが増えてきました。このような声を聞くと、普段の介護が一方通行でないと実感でき、これからもやりがいのある介護職に誇りを持って頑張ろうと感じる瞬間でもあります。

※看取りケア

看取りとは、近い将来に死に至ることが予見される方に対し、その身体的・精神的苦痛、苦悩をできるだけ緩和し、死に至るまでの期間、その方なりに充実して納得して生き抜くことができるように日々の暮らしを営めることを目的として援助することであり、対象者の尊厳に十分配慮しながら終末期の介護について心をこめてこれを行なうことである。

病院の機能分化と 連携をすすめるために

■島田病院 整形外科 青木大輔

はあとふるグループには2つの病院があります。島田病院では、整形外科の急性期医療とリハビリテーションを専門とし、八尾はあとふる病院では、回復期のリハビリテーションを専門とするというように、診療内容は異なります。治療の内容によっては、転院して治療を継続しなければならない場合もあります。



限りある急性期病床を有効に活用する。

現在、多くの患者さまが島田病院で骨折、靱帯損傷、椎間板ヘルニア等の専門的な手術を受けています。その中でも、多くの手術後の患者さまは、低下した運動機能を回復するため、早期の入院リハビリテーションを行ってから退院します。退院後は、外来通院での治療に移行していくのが、治療の流れとなります。

しかし、疾患によっては、すぐに家に帰れない方もいらっしゃいます。例えば大腿骨頸部骨折(足の付け根の骨折)では手術をしても、すぐに歩ける状態になりません。大体1~2週間たって傷の状態が落ち着けば、じっくりとリハビリテーションを行なう必要があります。(この期間を医療用語では回復期リハビリテーションといいます。)入院でのリハビリテーションを必要としていても、島田病院の病床数は、限られており、他の急性期病院でも同じ事が言えます。入院して、長期的な回復期リハビリテーションが必要な方で入院のベッドを埋めてしまうと専門的な手術を行うための病床数が不足してしまうのです。このような理由から、整形外科疾患に限ったことではありませんが、長期的なリハビリテーションが

必要な場合は、次の回復期病院を考えていく必要があるのです。

患者さまが安心して 治療に専念できるための環境作り。

患者さまにとって手術後、転院するという事は、療養環境も変わるし、主治医も変わります。そのような不安を少しでも軽減できるように、はあとふるグループでは、島田病院の整形外科医が八尾はあとふる病院で定期的に勤務する態勢をとっています。こうすることで、執刀した医師が、手術後のフォローもしながら回復期のリハビリテーションに取り組むことができるようになりました。また、八尾はあとふる病院のリハビリテーション科の専門医や多職種、ご家族とも相談しながら行うので、より個別的なリハビリテーションを行えます。

また、八尾はあとふる病院などの回復期リハビリテーション病院は、入院治療に特化したリハビリテーション病院なので、基本的には手術などの急性期治療もなく、じっくりとリハビリテーションを行うには良い環境と言えるでしょう。

様々な専門性を持った施設が 切れ目なくつながっていくことが大切です。

実に様々な患者さんがおられ、その人がその人らしく生きるためには、医療施設、介護施設が必要になってきます。これらの様々な専門性を持った施設が切れ目なく、つながっていくことで、地域の方々が安心した生活をおくれる第一歩につながるでしょう。

○ profile

○ 青木 大輔 (あおき だいすけ)

○ 島田病院
○ 整形外科 医師
○ 趣味 柔道。

○ ひとこと

医療関係者だけでなく、地域の方々と一緒に、より良い地域医療体制を作っていきたいと思っています。



島田病院 整形外科医師による公開医療講座を開催しました。



平成20年11月に3週にわたって地域の方々が自由に参加できる「島田病院 公開医療講座」をLICはびきのにて開催しました。

11月6日(木)に開催した初回は、72名定員の会場が、140名以上の参加者であふれました。スタッフが急遽、追加で椅子を手配し、何とかお座りいただいて聴講していただけたという盛況ぶりでした。非常に窮屈な会場であるにもかかわらず



ず、皆さんは熱心に講師の話しに耳を傾け、スクリーンに映し出された資料をご覧になられていました。講座終了後には、講師への質問のために列を作って順番待ちをされる参加者の方々もおられました。11月13日(木)、11月20日(木)に引き続き行った講座にも多くの方にご参加いただき、整形疾患に対する関心の高さを実感しました。

今後も島田病院 整形外科医師による、地域の方々に向けた公開医療講座を継続的に開催する予定にしております。次回も皆さま方のご参加を心よりお待ちしております。

●公開医療講座開催

11月6日(木) 14:00~16:00

「整形外科のかかり方」…………… 院長 島田 永和
「腰痛の診断と治療について」…………… 整形外科科長 金田 国一

11月13日(木) 14:00~16:00

「関節周辺の骨折治療について」…………… 診療部副部長 吉田 玄
「下肢のスポーツ障害について」…………… 整形外科医長 富原 朋弘

11月20日(木) 14:00~16:00

「ヒザ・股関節の人工関節について」…… 整形外科医 佐竹 信爾
「五十肩の診断と治療について」…………… 整形外科医長 松浦 健司



八尾はあとふる病院は病院機能評価(Ver.5)の認証を取得しました。

八尾はあとふる病院は平成20年6月、厚生労働省外郭団体(日本医療評価機構)による病院機能評価(Ver.5)を受審し、10月に認定をいただきました。

この審査は、医療機関の機能を第三者的立場で評価し、「患者の安全と権利」「療養環境サービス」「医療の質や安全への取り組み」「病院の組織運営」等々、医療やケアの質を大きく7分野に分けて問うものです。

尚、当院は平成15年に第1回目の認定を受けており、今回はその更新になりますが、初回審査以降、中河内地域においてリハビリテーションをはじめとする地域連携や医療・介護の質の向上に取り組んできたことに対し、評価をいただいたことを

嬉しく思っております。

今回の認定更新をはげみとし、地域の皆さまの厚い信頼がいただけるよう、今後とも質の高い医療・介護サービスの提供に向けて取り組んでまいりたいと思います。



<http://www.jcqh.or.jp/html/index.htm>

※病院機能評価審査の結果につきましては、(財)日本医療機能評価機構のホームページの情報提供のページに記載されておりますが、病院機能評価(Ver.5)審査結果への更新は、未定です。

「ふれあい健康まつり」 島田永和院長が講演。

—— 人生、動いてナンボ ——

平成20年10月19日、羽曳野市制50周年記念事業「ふれあい健康まつり」が、はびきのコロセアムにて開催され、島田永和院長の「人生、動いてナンボ!!」というテーマの特別講演が開かれました。当日は、約150名もの羽曳野市民の方々に参加していただきました。

今回の講演では、島田永和院長が、著書「痛い腰・ヒザ・肩は動いて治せ」(2008.6.13発刊 朝日新書)にもある、スポーツ医療をもとにした考え方を主としてお話しました。「どのようにすれば痛みを減らし、動かすことができるかを考える」というスポーツ医学の考え方は、スポーツ選手だけでなく一般



の方々にもあてはまることや、必要以上の安静は、副作用として「弱ってしまう」こと、自分の身体と常に対話し、できることは自分で行うことが大切であることなどでした。



講演は、スライドを使用してわかりやすく進行し、会場の方々は、熱心に聞き入っておられました。そして、講演の最後に「人は老いるし機能低下はある。しかし、その低下するスピードは変えることができる。動いてナンボ!!」と締めくくりました。

また当日は、はびきのヴィゴラスのトレーナー2名も参加し、ウォーキング教室を開催しました。手軽にできる運動なので、約200名もの方に参加いただき、正しいウォーキングについて学んでもらいながら、楽しく身体を動かしていただきました。



Cafe Infection Control

感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

法人事務局 感染・安全管理担当

感染管理認定看護師 森下 幸子

新型インフルエンザとは?そして、どうする?

毎年、冬になりますとインフルエンザが流行しますが、最近「新型インフルエンザ」という言葉をテレビなどでよく聞かれませんか?

① 新型インフルエンザって何?

症状のない感染した水鳥から鶏などへ感染し、感染した鶏がバタバタと死んでしまうインフルエンザを鳥の間で流行する「高病原性鳥インフルエンザ」といいます。ところが、感染した鶏と接触した人も感染し、死亡した事例が海外で起こりました。今のところ、人から人へ感染した報告はありませんが、ある日ウイルスが形を変えて、鳥から人へ人から人へ感染した場合は、「新型インフルエンザ」となります。

② 大流行すれば何が問題?

見た事のない感染症ですので、誰も免疫を持っていませんから、世界中で大流行してしまいます。すると、働ける人が減り、日常生活に影響を及ぼしますし病院には、患者さんが押し寄せる事が予測できます。

③ 何を準備する? 何を守る?

- 流行すればできるだけ、家の中で過ごすことができるよう、最低2週間分の食料や日用品は備蓄しましょう。
- 外出から帰れば、うがいと手を洗う習慣を身につけましょう
- 熱やせき、くしゃみがある場合は、マスクをつけ、人にうつさないようにしましょう。
- 咳やくしゃみをするときは、ハンカチなどで口と鼻を覆い、人から1メートル離れましょう。
- 流行時に、近隣で連絡や協力ができるように、確認をしておきましょう。
- 弱ったり死んでいる野鳥には触れない。

★詳細は、厚生労働省新型インフルエンザ対策推進室
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>

はあと ハート インフォメーション

はあとふるグループのコア概念

使 命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく 地域の方々に
提供し続けます

理 念

私たちは、その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを
心(Heart)と技術(Hands)で
支援します

基 本 方 針 4つの追求

- 1.「確かな技術」を追求します
- 2.「心に届く」を追求します
- 3.「安全」を追求します
- 4.「信頼でつながるチーム」を追求します

第15回スポーツ選手・指導者交流会

日程 平成21年2月21日(土)

時間 15:00~21:00(14:30受付開始)

場所 大阪国際交流センター 大阪市天王寺区上本町8-2-6
TEL 06-6772-5931

●当日のプログラム

- 14:30 受付開始
- 15:00 スポーツセミナー
- 17:00 立花氏基調講演
- 19:00 懇親会

立花 美哉 氏 プロフィール

立花氏は、現役時代に3度(アトランタ・シドニー・アテネ)オリンピックに出場され、銀メダル4つ、銅メダル1つを獲得しさらに、2001年世界選手権福岡大会では、武田美保選手とのデュエットにて、日本シンクロ界初の金メダルを獲得するなど、輝かしい成績を収められました。引退後はシンクロ普及活動に努める一方で、2005年よりアメリカ、カルフォルニア州にあるサンタクララアクアメイズにてシンクロの指導法を学ばれ、現在は井村シンクロナイズドスイミングクラブのコーチとして、未来のオリンピック選手達の指導にあたられています。

公式ホームページ
<http://www.miyatachibana.com/>



特別講師 元シンクロナイズドスイミング日本代表

立花 美哉 氏

スポーツセミナー

『成長期のスポーツ障害』～腰部を中心に～

講 師 医療法人 永広会 島田病院 理学療法士
八尾はあとふる病院 理学療法士
はびきのヴィゴラス トレーナー(予定)

●参加費/無 料(懇親会に参加される方:一般3000円 学生2000円)

■お申し込み・お問い合わせ

第15回スポーツ選手・指導者交流会事務局(はびきのヴィゴラス内)

TEL/FAX 072-953-1007 Eメールアドレス vigorous@heartful-health.or.jp

ホームページアドレス <http://www.heartful-health.or.jp/shimadahp/shimadatop.htm>

Check!

QRコードで簡単アクセス

島田病院の情報が携帯電話から簡単にアクセスできます。



はあとふる グループ

●医療法人(財団)永広会

島田病院 072-953-1001
Eudynamics はびきのヴィゴラス 072-953-1007
介護老人保健施設 悠々亭 072-953-1002
在宅介護支援センター 悠々亭 072-953-1003
介護サービスセンター ゆうゆう亭 072-953-5514
〒583-0875 大阪府羽曳野市樺山100-1

ヘルパーステーション 悠々亭 072-953-1062
訪問看護ステーション ハートパークはびきの 072-953-1004
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院 072-999-0725
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる 072-999-8126
〒583-0815 大阪府八尾市宮町2-10-22

●社会福祉法人 はあとふる

高齢者生活福祉センター ゆうゆうハウス 072-931-1616
〒583-0875 大阪府羽曳野市樺山96-10

